

現状と目指す方向性

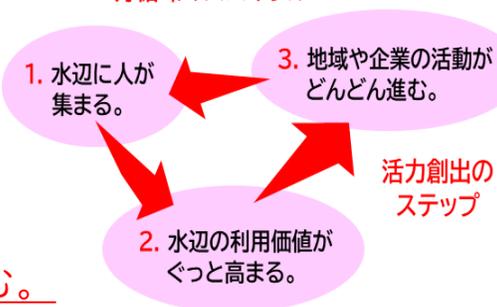
- 埼玉県の魅力度と愛着度は、都道府県ランキングで下位
※ 魅力度38位 → 45位 (2020年→2021年 ブランド総合研究所調べ)
- 埼玉県内における河川敷地の商業利用は全国第2位
※ 都市・地域再生等利用区域 13箇所 (全国92箇所 2021年3月時点)
- 川の再生で整備した水辺空間を埼玉の魅力として活用できる。
⇒ 民間企業等のアイデア・ノウハウを活用した水辺の活力創造

目的

- 県の魅力の1つである「川」を埼玉ブランドに押し上げ、その魅力を県内外に『川の国埼玉』を浸透させる。
- 水辺空間の魅力を向上させることにより、地域活性化や県内への民間投資を促進する。

⇒ 水辺空間の利活用を促進させ、好循環を生む。

好循環のスパイラル



事業内容

1 「川の国埼玉」の魅力を発信し、認知度と価値を高める取組

(1) 「川の国埼玉」の魅力発信

川遊びスポット、川の絶景ポイント、ダム・砂防堰堤等を巡るインフラツーリズムの情報を、埼玉バーチャル観光大使やタウン誌記者のノウハウを生かし、効果的に発信します。



(2) 「新しい生活様式」による水辺の利活用を促進

「新しい生活様式」に対応した水辺のイベント、環境学習、美化活動等の支援・SNSによる情報発信を市町村やSAITAMAリバーサポーターズと連携して行い、水辺のニューノーマルを提案、利活用を促進します。



2 地域や企業の活動を促進し、多彩な水辺空間を創出する取組

(1) 産・官・学連携によるソーシャルデザイン

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム、大学、SAITAMAリバーサポーターズ等の多様な主体と連携し、魅力ある水辺空間を生かしたソーシャルデザインを推進します。

ミズベリング会議を開催し、水辺を利活用した事業を企画、Next川の再生「水辺deベンチャーチャレンジ」の導入に向けて市町村が行う社会実験、トライアルサウンディングを支援します。

(2) 水辺空間とことん活用プロジェクトの推進

自然豊かな水辺空間と川の再生の取組で整備した箇所をとことん活用し、県では民間事業者等による河川敷地の商業利用を促進します。

